

確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
(3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

5月15日(火)

岡本

今回の校内研通信は、学校改革部会のトップである岡本先生の執筆によるものです(´_`)
2年目とは思えない、内容になっています。必見です!

学校改革部会より

先週の学校改革部会で話し合った際に、以下のような話題が出ました。

- 授業中、子どもたち同士での“話し合い”“対話”ができていない。
- 授業態度が“受け身”である。
- “自分たちで授業を進めよう”“積極的に発言しよう”という姿勢が見えない。

教師がペアやグループでの話し合いの時間を設けても、“話し合いの仕方”が分からないような感じがする。黙っておけば、先生やよく発言をする子たちの言葉で無難に授業が進んでいくということ子どもたちも分かっているような気がする…という話も出ました。

そこで、そのような現状になってしまっている背景や理由について話し合ってみると、次のようなことが考えられました。

- ① 授業終了時刻になると、教師がスムーズに終わるよう進めてしまう。
- ② 人数の多さによる、リーダー経験不足。
(人前で話すことに慣れていない→意見が言えない)
- ③ “自分たちで考えざるを得ない状況”の少なさ。

①については、限られている授業時間の中での学習形態の工夫を今後も続けていく必要があります。校内研修等でも学び合っていきたいと思います。

②・③については、「確かに…」という声が上がりました。子どもたちの将来も見据え、全ての子たちがリーダー経験をする機会を学級でも作っていけるといいですね。同時に、自分とは異なる意見を受け入れたり、自分の考えを互いに伝え合ったりできる集団づくりも目指したいものです。

今回は、これらの話をする中で、今やっている中で何か少し工夫ができないかを考えてみました。全学級が行っている『特別活動』の中で、『当番活動』、『係活動』について見直してみようという意見が出ました。

特別活動 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする**自主的、実践的な態度を育てるとともに**、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。



文部科学省国立教育政策研究所のHPに、「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(2014)」では、それぞれ次の様に記載されています。

- 『当番活動』とは…学級の生活が、円滑に運営されていくために学級の仕事をみんなで分担し、担当しなければならない活動で、学級生活の充実に資するもの。
- 『係活動』とは…児童がその仕事を見いだして創意工夫し、学級の生活をより主体的、自主的で豊かなものにしていく活動で、学級生活の向上に資するもの。

※資料を Y フォルダの各学年フォルダに PDF で保存済みです。参考にさせていただきます。

話し合いを機に『当番活動』と『係活動』との明確な違いを改めて振り返ることができました。子どもたちの自主的な係活動により、それぞれの個性が光る学級集団になりますように…(^)そして、子どもたちが自分たちで学級をつくる主体的な姿勢を高められるといいと思います。そのような取組が、日々の授業に取り組む子どもたちの態度に関わってくるのではないのでしょうか。

席替えなど、クラス組織を変えるタイミングで、上記の視点を取り入れた係・当番活動を設定されてはいかがでしょうか。

実は私自身も、数年前まで「当番活動」と「係活動」をごちゃ混ぜにした学級経営をしていました。係活動が、児童の創意工夫のない単なる仕事になっていました。

係活動を主体的に行わせていくためには、特にスタート時点でエネルギーを要しますが、いろいろさせていくと、子どもたちからおもしろいアイデアが飛び出したり、失敗も経験しながら自分たちなりに方法を模索しようとする姿も見られたりします。うまくいかなかった係活動も出てきますが、それについては原因を考え、次の係編成の時になくしたり、別の係に統合したりするなど、1年間を通して学級全体で試行錯誤させるようにしています。(野口先生が特別活動の取組について、いろいろと知っている雰囲気満載でした(^_^))

短期間で子どもたちに真の力はつきません。3月の子どもたちの姿をイメージしながら、上記のような特別活動を充実させていきましょう。

岡本先生、ありがとうございました。

徳澍